



ねらい: 私たちの生活とも深い関係のあるパームオイルの長所、短所を取り上げ、「環境問題」にも様々な見方考え方があることを理解させる。	(2)スライド説明 パームオイルをめぐる様々な問題について	(4)ワークシート
4限目 テーマ: パームオイルをめぐるロールプレイング ねらい: ロールプレイを通して、環境問題に対する共感的理解・関心をさらに深め、認識力や分析力を育てる。	(1)ロールプレイング パームオイルをめぐる様々な立場の役割となつて、「環境」や「持続可能な開発」について話し合う (2)話し合いのふりかえり、感想記入	(1)役割カード (2)ワークシート
5限目 テーマ: 私たちにできること ねらい: 問題解決に向けて、考え行動する姿勢を養う	(1)ブレインストーミング 「熱帯雨林を守るためにできること」についてアイデアを出し合う (2)アクションプランづくり 具体的な行動目標・計画を立てる	(1)ワークシート

## 6. 授業の詳細

### 【1限目】マレーシアってどんな国？(学年集会)

- ①マレーシア(インドネシア)の民謡「ラササヤン」を聴かせる。
- ②ちょうど1年後に修学旅行で行くことになるマレーシアについての基礎知識について、パワーポイントを使って説明する。主な項目はマレーシアの「地理」「国旗」「通貨(貨幣)」「民族」「料理」「ことば」について。
- ③マレーシアボックス。マレーシアの「もの」を通して、その文化を身近に感じさせる。8クラスより代表者を前に出させて、その「もの」が何かを考えさせるクイズ。使用したものは「マレー風」「セパタクローのボール」「トウドウン」「お祈り用じゅうたん」「ハラルマーク」「軍票」「ヒル除けソックス」「サロン」。それぞれのものについて、スライドを用いて補足説明をする。
- ④マレーシア観光局制作のCMを流す。インターネットより。

### 【2限目】マレーシアと私たちの生活のつながり(各ホームルームにて)

- ①「物品リスト」(事前研修でAVC 荒川氏が使われたもの)を全員に配布し、それらの物品のうち、「生活になくってはならないもの」を10品選ばせる。さらに、3つにしぼらせ、周りの生徒と答えを比べさせる。
- ②「物品リスト」のすべてが熱帯雨林からきているものであることを明かし、特に「木材」と「パームオイル」は私たちと大いに関係があることを説明する。
- ③ビデオ『素敵な宇宙船地球号ボルネオ島子ゾウの涙』と『福留功男のジャングル紀行』を約30分に編集したものを見せる。
- ④ワークシートに記入させながら、ビデオの内容をまとめる。

### 【3限目】パームオイルから考える環境問題(学年集会)

- ①パームオイルに関するビデオ『所さんの目が点』(約10分に編集したもの)を見せ、パームオイルについての基礎知識を与える。

②パームオイルについて補足説明。お菓子などの包装紙の原材料名の記載を見せて、パームオイルが「見えない油」であることや、さまざまところで使われており需要が伸びていること、その長所などを説明する。

③洗剤のCM(30秒)を見せ、内容について考えさせる。

④パームオイルをめぐる諸問題について、スライドを用いて説明する。

#### 【4限目】パームオイルをめぐるロールプレイング(各ホームルームにて)

①クラス(40人)を5人×8グループに分け、それぞれのグループに役割カードが入った封筒を配り、5人がそれぞれその中の役割を演じて(ロールプレイング)、話し合いをすることを説明する。役割はA パームオイル搾油工場長、B 森と共に暮らす先住民の村長、C マレーシア政府開発局の役人、D 環境保護団体の代表、E パームオイル消費者、である。必要であれば各役割について補足説明をする。

#### <役割カードの例>

A パームオイル搾油工場長 45歳男性(インド系マレーシア人)

意見は「もっと工場規模を拡大して、収入を増やしたい。」

##### ◆ロールプレイ中の立場

○パームオイルの市場価格は右肩上がり、今のところ満足のいく収入が得られている。従業員にも十分な賃金を支払っている。これからもっと労働力を確保し、工場規模を拡大して現金収入を増やしたい。

○近年の環境意識の高まりから、パームオイルの需要はますます増えている。バイオ燃料としても注目されている。この需要に応えるためにも、生産は拡大していかなければならない。

○毎日工場で働いているが、環境に悪いと思ったことはない。パームは二酸化炭素も吸収するので、森林伐採よりもはるかに良いのではないかと。また残ったパームの茎や葉は動物の肥料としても利用できる。

○パームオイル生産過程で出る廃液は気になるが、これはこれから日本など工業先進国の技術協力を得て、いずれ解決できるだろうと考えている。

○困っていることは、プランテーションで働く労働者が不足しているということである。

②テーマは「マレーシアはパームオイルの生産を増やすべきである、是か非か」。各役割の主張に基づいて話し合いをさせる。

③グループを8人×5グループに分け直し、それぞれのグループに役割シートが入った封筒を配る。新しく3つの役割が加わった8つの立場から再度話し合いをさせる。

役割は、上記AからEに加えて、F 日本の企業から来た会社員、G パームオイルプランテーション労働者、H 日本からマレーシアに行くエコツアー観光客、である。

④話し合いをふりかえり、自分はどの立場に一番共感できたか、どの意見に賛成できなかったか、など感想を記入させる。

#### 【5限目】私たちにできること(各ホームルームにて)

①これまでの学習を振り返り、「熱帯雨林を守るためにできること」をグループでなるべくたくさん出し合い、ポストイットにすべて書き出す。

②出たアイデアを「一人ですること」「家族と一緒にできること」「クラスや学校ですること」などと分類することによって、生活の様々な場面で行動ができることを認識させる。

③グループごとにまとめた意見を発表。

④個人に戻り、アクションプラン(行動計画)を立てる。具体的な行動目標や数値目標、毎日のチェック項目などを考えさせる。

## 7. 授業の感想

本校は海外(シンガポール等)への修学旅行を実施してきたが、平成19年度入学生より行き先をマレーシアとした。現地ではクアラルンプール市内観光の他に、森林研究所 FRIM や近郊のカンポン(村)の訪問などを予定している。たしかに海外へ行くこと自体、ほとんどの生徒にとって初めての経験であり、見るものすべてが異文化であり、海外修学旅行はそれだけで大変有意義な経験になるだろうと思うが、そこに学びの要素がなければ結局は団体の観光・買い物ツアーと大差ないのではないかと、という思いも抱えていた。マレーシアと自分たちとのつながりや環境問題などについて、私がこの研修で学んだことを活かして、事前に少しでも深く学習させることによって、より有意義な修学旅行となることを期待している。

ロングホームルームを使って実施したので、授業形態は全クラス対象の学年集会とせざるをえなかった。もしくは各クラスで実施する場合は、各クラス担任に協力をお願いして実施してもらうほかない。生徒が「感じ」、「考える」部分を大切にしたいので、教師による講義形式は極力避けたい。しかし1時間目は学年集会ではあったが、講義形式を避けて「マレーシアボックス」のゲームを取り入れたものの、当然のことながら生徒がざわついて収拾がつかなくなってしまうことは反省点である。生徒と教師(ファシリテーター)、生徒と生徒同士の関係がしっかりとできあがった少人数(せめて40人以下)のクラスでなければ、参加型学習は難しいと改めて実感した。

別枠で時間を確保して、国際教養科(2クラス)については、さらに掘り下げた内容を扱いたいと考えている。また時間があれば事後学習として、カンポン(村)の生活を体験した生徒たちに対し、「開発とは何か」を考えさせるような授業も実施してみたい。

## 8. 参考資料

JICA 事前研修資料

「パーム油のはなし「地球にやさしい」ってなんだろう？」開発教育協会 2002

「Eco borneo ボルネオ・ネイチャーブック 別冊山と溪谷」山と溪谷社 2006

「まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実」明石書店 2003

「モノのこし方行く末」京都自由学校 2001

ボルネオ保全トラストホームページ <http://www.zeri-bct.jp/index.html>